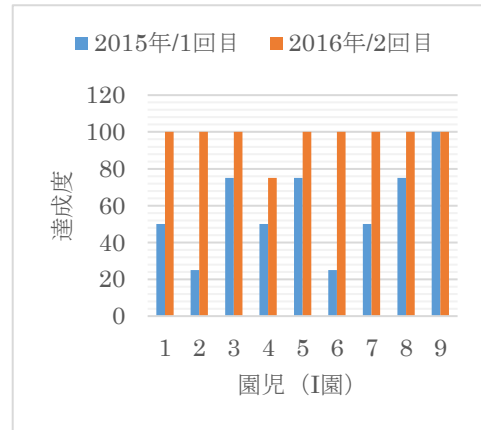
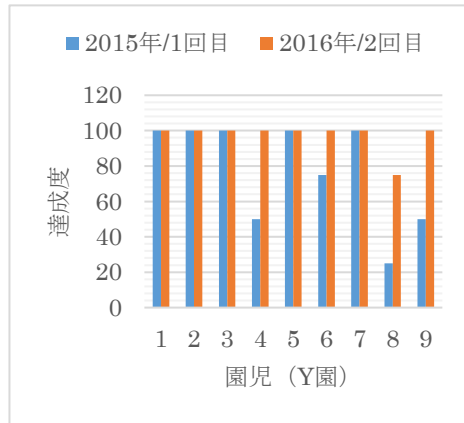


申請者	学科名	造形デザイン学科	職名	講師	氏名	風早 由佳
調査研究課題	総社市英語特区事業に関わる英語力評価表の作成と英語指導者支援教材の開発					
調査研究組織	氏名		所属・職		専門分野	役割分担
	代表	風早 由佳	デザイン学部・講師		英語教育・アメリカ文学	ループリック調査、評価表作成、クラスルーム・イングリッシュ翻訳、編集
	分担者	柴田 真樹子	山田幼稚園 教諭		幼児教育	クラスルーム・イングリッシュの選定、評価の実施
		津高 千絵美	維新幼稚園 教諭		幼児教育	クラスルーム・イングリッシュの選定、評価の実施
調査研究実績の概要	<p>平成26年度4月から始まった総社市英語特区事業は今年度で三年目を迎え、学習効果に対する評価方法、測定方法が確定していないことがこれまで課題として挙げられてきた。そこで、英語特区幼稚園2園を対象にした調査、評価指標の設定、評価指標を用いた学習効果の評価、評価指標の見直しを行い、総社市英語特区幼稚園における園児の英語力評価表を作成した。</p> <p>まず、2園の現状を把握するために、インタビュー形式で2園園児全員の英語力をはかった(4月)。4、5歳児には、「あいさつ」、「天気」、「色」、「数」、「動物」等を含めた既習事項を中心に、ALTと外部評価者(研究代表)が英語で質問し、園児が答えるという形式をとった。この結果をもとに、評価項目として挙げるべき点を選定し、研究分担者、ALTと検討を重ねた。</p> <p>検討の結果、継続的に学習成果をはかるテーマを「あいさつ」にすることとし、評価指標をinputからinput/output、outputの発達段階ごとに5段階にわけた指標をNo.1~No.5まで設定することとした。それぞれの項目に対する評価は、5段階評価とした。</p> <p>[評価項目]</p> <ol style="list-style-type: none"> 英語による繰り返しやジェスチャー、及び日本語による補助的な説明があれば、意味、内容を理解することができる。 英語による繰り返しとジェスチャーによって、意味・内容を理解することができる。 繰り返しやジェスチャーによる補助が無い場合でも、おおよそ英語による発話の意味、内容を理解し、応答したり行動に移そうとしたりする姿勢が見られる。 英語による発話の意味・内容をすぐに理解でき、限定的・習慣的な場面において適切に使用することができる。 英語による発話の意味・内容をすぐに理解でき、状況・環境が異なる場合でも応用して使用することができる。 <p>さらに、評価表を使用したインタビューの分析、検討を行う中で、幼児教育において重要な態度、意欲についてははかる必要があるとの意見があった。そこで、言語理解が深まることが態度・意欲面においても影響を及ぼしていることをはかるため、以下の評価項目を加えた「言語理解」と「意欲」の2点についてそれぞれ評価することとした。</p> <ol style="list-style-type: none"> ALTのあいさつの言葉をまねて言う。 あいさつに関する歌や絵本を楽しんで聞く。 How are you?の問い掛けに、相手の顔を見て答える。 ALTに自ら(促されずに)あいさつをする。 相手に気持ちを尋ねる。 					
<p>地域貢献への反映を踏まえて記述のこと</p>						

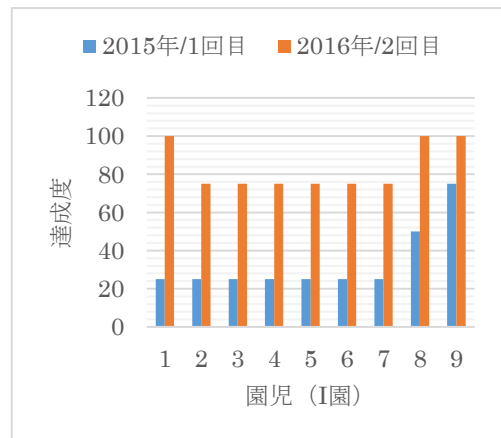
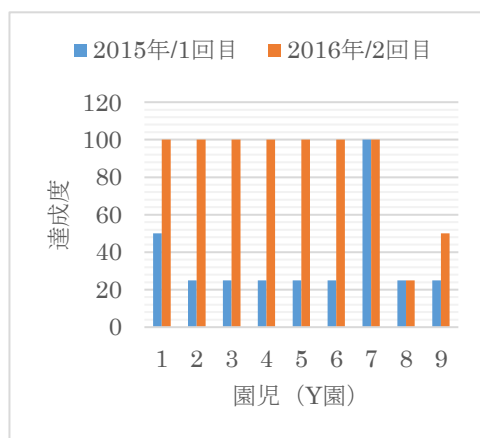
「言語理解」の評価項目については、ALTと外部評価者、「意欲」については研究分担者が評価を行うこととし、年4回の調査結果から、1年間の学習成果を明らかにすることにした。2015年度と2016年度の結果をもとに、評価項目「言語理解」1～5、「意欲」1～5についてそれぞれグラフ化して成果を確認した。「言語理解」の第一段階として設定した「1. 英語による繰り返しやジェスチャー、及び日本語による補助的な説明があれば、意味、内容を理解することができる。」について18人（9人×2園）の園児の1年間の伸びは以下の通りである。全項目の調査において、調査開始時にはI園園児の英語力はY園園児と比較すると低く、その差は大きかったが、一年後の調査では、I園園児のほぼ全員が目標値に達し、Y園園児と同値であることが明らかになった。Y園園児も調査開始時に非常に高い値であったが、1年後も英語力を維持していることがわかった。



[質問項目1：英語による繰り返しやジェスチャー、及び日本語による補助的な説明があれば、意味、内容を理解することができる。]

また、最も高い評価指標として設定した「5. 英語による発話の意味・内容をすぐに理解でき、状況・環境が異なる場合でも応用して使用することができる。」について、両園とも調査1回目での言語理解度は半数以下の園児がほとんどであったが、一年後には、Y園では7割程度が目標値を達成しており、I園においても全員が約70%以上の正答率であった。1年間の学習を通して、限定的な内容での英語表現についての理解、定着が深まっていることが確認できた。

10月26日「総社市教育委員会指定幼稚園教育研究発表会」において評価表をもとに行ったデータの分析の発表、および講演（「心豊かな子どもを育てる幼児期の英語教育」）を行い、参加者と質疑応答、意見交換を行った。



[質問項目5：英語による発話の意味・内容をすぐに理解でき、状況・環境が異なる場合でも応用して使用することができる。]

調査研究実績の概要

地域貢献への反映を踏まえて記述のこと

評価指標が作成できたことで、園児の学習効果を限定されたテーマ内ではかることが可能になった。また、その学習成果をもとに、5歳児までの言語習得過程の特徴が明らかになったことは、幼稚園における3年間の英語学習内容、及び達成目標の設定根拠となる。幼少のスムーズなカリキュラム連携を図ることも今後可能である。

英語指導者支援教材の作成については、に基づき必要語彙、表現を抽出し、英訳作業を行った。また、英語特区の英語カリキュラムに基づいた授業内で必要となる語彙、表現についても、研究分担者、ALTの協力を得て、翻訳済みである。以上の内容をまとめた文書の特区2園の教員に配布した。次年度以降、内容の厳選、見直しを行い、冊子にまとめ、印刷、市内幼稚園、小学校へ配布する予定である。

調査研究実績
の概要

地域貢献への
反映を踏まえ
て記述のこと



毎日の生活で使える英語フレーズ集

[英語フレーズ集 (案)]